日本語と中国語のあいさつ表現について

—外国人研究者の特別授業より—

曲　志強・林　伸一

1．はじめに

日常的なあいさつ表現は、生活言語（Basic Interpersonal Communicative Skills）として位置付けられ、コミュニケーション活動の基本的な部分を占めている。「おはよう」「こんにちは」「さようなら」「頑張って」など卑近なあいさつ表現に着目し、コミュニケーション上の特徴を探究することは、生活言語という自然言語を研究対象としてメタ言語で解説し、機能と役割を整理することになる。また、日本人と中国人が互いの日常的なあいさつに対する認識と評価に関して検討することは、異文化コミュニケーション（Crosscultural Communication）の観点からも様々な気づきと知見を得ることができると思われる。

本稿では、インタビュー調査の結果を素材として学生に提供する形で、特別授業を実施し、その受講生（日本人学生と中国人留学生）の感想を基に、検討を進める。

授業の素材として提供したのは、曲志強が2006年３月から同年８月までの６ヶ月間で実施したインタビュー調査の結果である。インタビューは、非構造化（unstructured）面接法ではなく、「あなたは日常あいさつに対してどういうふうに認識していますか。それはなぜですか」「あなたは日本人（中国人）の日常あいさつの特徴についてどう思いますか」などあらかじめ14項目の質問を設定した半構造化面接法を用いた。日本人、滞日中国人、中国人各10人を対象に、個別に質問した。（14項目の質問項目の内容に関しては、別添資料参照）

特別授業は、2009年１月19日に実施し、講義のテーマは「日本語と中国語のあいさつ表現について—日本人と中国人の日常あいさつに関する意識調査及び実態調査—」とした。質問感想カードとして回収したフィードバックは46通であった。受講生の感想文には、各々の受講生自身の率直な感想や体験、認識などが示されており、貴重な談話データが得られたと考える。

2．研究の目的

本研究の目的は、次の３点である。

① 曲志強が2006年３月から2006年８月までの６ヶ月間で実施したインタビュー調査の結果（詳細は、曲、2009b参照）を特別講義受講生と共にフォローアップする形で検証する。特に日本人と中国人が互いの日常的なあいさつ表現に対する認識と評価について検討する。

② 日本語の励まし表現「頑張ってね」に関しては、曲・林（1999b、2000a、2000b、2000c）の質問紙法による量的研究があるが、それらをあいさつ表現として見直し、再検討する。

③ 外国人研究者による授業という形で大学生の学習意欲を喚起し、大学の授業が活性化できるか授業研究という観点から検討する。

3．先行研究

曲・林（1999a）は、「日本式のあいさつ表現は、決まり切った公式化、簡略化、様式化の特徴があり、中国式のあいさつ表現は、具体的な個人情報をめぐってやりとりするという特徴がある」との仮説を設定し、日本人604名と滞日中国人86名に対するアンケート調査を実施し、仮説が支持される結果を得ている。

曲（2009a）は、日本人と中国人のあいさつ表現についてテレビドラマの談話分析を行い、「日本人のあいさつ表現が場面ごとに、その時その場面にもっとも適合すると思われる定型表現があることが、特徴的であるとしている。これに対して、中国人の日常的なあいさつ表現は、その時その場の相手の具体的な状況や様子を詳細にあいさつに取り入れて表現する特徴が著しい」としている。

4．研究方法

本稿では、定型表現を多用している日本人のあいさつ方式と、相手のその場の状況や様子に言及することによってあいさつする中国人のあいさつ方式の差異に関して、互いにどのように認識し、評価しているかを検討した。また、滞日中国人の場合は、両者のいずれからも影響を受けていることから、どのようなあいさつ方式を用いていて、どう認識しているのか、別途に探究した。

日本人と中国人という二項対立的な検討になりがちなところを研究視点の輻輳化のために「滞日中国人」という視点を取り入れることにより三角関係化（triangulation）が可能となる。Triangulation（トライアンギュレーション）は、もともと三角測量を意味する言葉で、目的とする地点を他の二地点から観測することである。研究に複数の異なる視点を持ち込んで、対象や理論を検討することにより、独善的な論理構成を避けることができると考える（大谷、1997参照）。「滞日中国人」という視点を取り入れる調査方法は、曲（2000）が、中国国内の中国人と「滞日中国人」における励まし表現の比較のためにアンケート調査を用いて量的研究を行っている。本稿では、励まし表現の「頑張ってね」なども広い意味でのあいさつ表現と位置付け、量的な研究を補完する質的な研究として位置付けたい。

日本人と中国人のあいさつ表現を素材として行った大学の授業研究としてペア・ワーク（pair-work）を取り入れた授業方法論の観点から検討したい（林、2008参照）。

4－1．1　インタビュー調査について

インタビューとは何かについて、片桐（2008:38）は「インタビュー（あるいは面接法）とは、調査者と調査対象者との間で主に質問—回答形式の相互行為を行いながらデータを収集していく方法である」と述べている。土岐（2004:32-43）は、「インタビュー」などのような「フィールドワーク（野外調査）」の特徴を論述し「フィールドワークによって得られる資料は、直接、対象となる人々との『対話から』生の資料が得られる特徴がある」としている。

また、古賀（2008：3）も「インタビューに、人はなぜリアリティを感じるのだろうか。ひとつの理由は、語り聞く実践が、当事者のさりげない本音や思い入れをどこかで伝えてくれると感じているからである」としている。その点が、量的な研究では得がたいところである。

日本人と中国人が互いの日常的なあいさつに対する認識及び評価を調査することが、本研究の目的の一つであるから、インタビューという質的研究方法で探索することが、質問紙法等による量的研究方法に比べて、より詳細でリアリティのあるデータが得られると予想されたからである。そうすることにより、調査対象者の、日常生活におけるあいさつの重要性に対する認識及び個人の使用状況と考え方、日本人と中国人が互いの日常的なあいさつに対する認識及び評価が明らかにされると考えた。いわば、「話し言葉の民族誌（Ethnography of speaking)」(Hymes, 1962）の側面を持つ。そのような直接的「生の談話資料」をもって、あいさつ研究によく見られるアンケートなどの方法による調査で探りにくい部分の究明を試みた。

4－1．2　インタビューの実施方法と質問の設定

インタビューは、口頭で対象者に個別に質問し、質問内容について対象者に実情を踏まえて自由に答えるように求めた。記録手段はICレコーダで、録音した内容を書き起こして文字化し、談話データとして整理した。インタビュー対象者、一人当たりのインタビュー時間は平均して40～50分間ぐらいであった。質問の内容については、14の調査項目を設定し、同じ調査項目に関して日本人向けの日本語表示と中国人向けの中国語表示の2種類をあらかじめ準備した。

4－1．3　インタビュー対象者の選択と属性

インタビュー対象者の内訳を次の表１に示す。

表１　インタビュー対象者の属性表　　（単位：人）

対象者＼年齢	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
日本人女性	2	2	1	0	0	1	6
日本人男性	1	1	0	1	1	0	4
滞日中国人女性	3	1	1	0	0	0	5
滞日中国人男性	3	2	0	0	0	0	5
中国人女性	0	0	0	0	1	0	1
中国人男性	1	7	0	0	1	0	9
合計	10	13	2	1	3	1	30

表１に示したようにインタビュー対象者の年齢構成、男女比は、バランスを欠く面もあったが、日本人、滞日中国人、中国人が、それぞれ10人ずつとなる点でのバランスを重視した。

日本人のインタビュー対象者の中の７人は、少なくとも１年以上中国語の学習歴があり、程度の差はあるが、中国事情に対して興味があり、また、何らかの形で滞日中国人とつながりがあるという共通点がある。

滞日中国人のインタビュー対象者は、留学、就職または日本人の配偶者として、日本に３年以上滞在し、日本人と日常的なコミュニケーションを日本語で行なうことができる。

中国人対象者は当初中国国内の中国人を考えたが、実際に調査対象としたのは、仕事及び親

類訪問の理由で短期間来日した中国人で、インタビューの時期は、日本に３ヶ月以上６ヶ月以内の時点で、日本語が分からないか、あるいはほぼ分からないレベルの10人であった。その中の８人が技術関係の仕事で、日本人と一緒に工場現場で働いていた。他の２人は日本人と結婚した子どもの家庭へ親類訪問のために来日していた。中国人10人に共通する点は、日本語が分からないか、あるいはほぼ分からないレベルではあるが、日本人とあいさつを交わすチャンスがあり、日本人の日常的なあいさつ場面を観察することができ、日本人の日常的なあいさつに対して直感的に認識する機会がある点である。

プライバシー保護のため、インタビュー対象者を本論文の中で実際の姓名ではなく、以下のように記号化して示す。

日本人：日TM、日KW	滞日：　滞YW　滞LM	中国人：中YM　中LW

「日TM」の「日」は日本人の略称、「T」はインタビュー対象者の名前のローマ字表記の一文字目のアルファベット、「M」は男性の略称である。「滞YW」の「滞」は、滞日の略、「Y」はインタビュー対象者の名前のピンイン表記の一文字目のアルファベット、「W」は女性の略称である。中国人インタビュー対象者の略称方式は、滞日中国人と同じである。異なる対象者であるが、名前のローマ字表記の一文字目のアルファベット（滞日中国人と中国人が名前のピンイン表記の一文字目のアルファベット）が同じ場合、「T1」、「T2」のように分けて示す。

４－１．４　インタビューによる調査結果の対照と分析

インタビュー調査では、「あなたは日常あいさつに対してどういうふうに認識していますか。それはなぜですか。」「あなたは日本人（中国人）の日常あいさつの特徴についてどう思いますか。」など合計14の問題を設定し調査した。ここでは、日本人と中国人が互いの日常的なあいさつ表現に対する認識及び評価を問う設問六、設問七の回答を分析する。

インタビュー対象者の回答を引用する時、基本的にオリジナルの回答を用いるが、場合によって、（　　）括弧の中に補足説明を入れた。滞日中国人と中国人の回答の筆者による日本語訳を〈　　〉内に示した。日本人の回答は「　　」内に、中国人の回答は“　　”内に示した。

４－２．１　設問六　「あなたは中国人の日常的なあいさつの特徴についてどう思いますか」

この質問に対して、日本人、滞日中国人、中国人から、次のような回答が得られた。

日TM　：「新鮮で、すごくできてる感じ。中国人は自らこっちにあいさつしてくれない。こっちがしたら答えてくれる」

日KM　：「気楽に、日本ほど丁寧じゃない」

日HW　：「軽いあいさつするイメージ。相手の情況を詳しく言う。仕事忙しい時あいさつ気にしない」

日KW　：「畏まったあいさつしない。会ったらすぐ会話に入る。あいさつがないような感じがする」

滞ZM	："说得没有日本（人）详细，比较不拘小节。'吃了吗？'说得多。朋友用'喂！'"〈日本人ほど詳しくない。細かいところに拘らない。「ご飯を食べました？」は多く使われている。友達の間では「よー」が使われている〉
滞W1W	："比较不生硬，没有固定的话"〈わりあい硬くない。定型表現がない〉
滞W2W	："'出去啊？''吃了没有啊？'，实际上相当于'你好！'，不需要认真回答"〈「お出かけ？(出かけるの？)」「ご飯を食べました？」は、実は「こんにちは」に等しい、まともに答える必要はない〉
滞YM	："更日常，'吃了吗'等"〈もっと日常的だ、(例えば)「ご飯を食べました？」など〉
中XM	："表达方法多样。'你好！''早上好！'用得少，多是对刚认识的人采用，熟人不用。随意"〈表現のし方は多様である。「こんにちは」「おはよう」を言うのは少ない。だいたい知り合ったばかりの人に対して言う。よく知っている人同士の間では言わない。随意である〉
中HM	："随便。主要是问候一声"〈気軽である。主に声をかけることである〉。
中S1M	："初次认识的可能握握手，熟悉的就喊名字。中国的比较自然"〈初めて会った人の場合、握手するであろう。よく知っている人なら、名前を呼びかける。中国（語）の方はわりあい自然である〉
中S2M	："内容随意。看到邻居买菜回来，：'哟！今天做好吃的？'。看见对方后想到发生过的和还没发生的情况"〈内容は随意である。隣人が野菜を買ったのを見たら「やあ、今日はご馳走でしょうね」など〉

設問六の日本人、滞日中国人、中国人の回答を見ると、中国人の日常的なあいさつは、「気楽である」「随意である」「相手の情況を詳しく言う」のような特徴があるという認識において、三者がほぼ一致していると言えるであろう。ただ、日KMの「日本ほど丁寧じゃない」、日KWの「畏まったあいさつしない。会ったらすぐ会話に入る。あいさつがないような感じがする」の評価と、滞W1Wの〈硬くない、定型表現がない〉、中S1Mの〈中国語の方が自然である〉の評価とは、顕著な差があると思われる。また、日KWの「会ったらすぐ会話に入る。あいさつがないような感じがする」というのは中国人同士が互いの名前を呼び合うだけであいさつ表現の機能を果たす、あるいはあいさつ表現の代行をすることに起因するのではないかと思われる（曲、2009参照）。中S1Mが「よく知っている人なら、名前を呼びかける」としている。

陳（2009）は、日本語の「先生」と中国語の＜先生＞が意味範囲も用法も異なることについて調査し、次のように述べている。「現代語の＜先生＞の主な用法の一つは男性に対する＜尊称＞（尊称）である。その場合の＜先生＞は英語のMr（ミスター）という尊称に相当する。また、＜先生＞を用いて呼びかける場合、挨拶の意味合いも含まれている。見知らぬ男性に道を尋ねるような助力要請の場面で、＜先生＞を用いて呼びかける場合が多いが、顔は知っているが名前が思い出せない場合に<你好>（こんにちは）を使って挨拶するのは一般的である」。（注１）

4－2．2　設問七「あなたは日本人の日常的なあいさつの特徴ついてどう思いますか」

この質問に対して、日本人、滞日中国人、中国人から、次のような回答が得られた。

日I1W　:「時間帯のあいさつが違うこと。会釈する方が自然なあいさつ」
日KW　:「天候や健康の話。よくお辞儀する、礼儀正しい人が多い」
日I2M　:「言葉だけでなく、頭を下げるのは特徴」
日HW　:「表情や態度がそれなりに必要。笑顔が必要。」

滞WW　:“礼多人不怪。要主动打招呼。很重视打招呼。对表面上的礼节很在意”〈礼儀正しいなら無難である。自らあいさつすべきである。あいさつをとても重視している。表面的な礼儀に気を使う〉
滞LM　:“日本的特点，首先是根据早中晚，其次是天气。应该主动打招呼。日本人打招呼比较自然，亲切。此外日本人是为打招呼而打招呼”〈日本の方の特徴は、まず、朝昼晩の違い、次に天気のこと。自らあいさつすべきである。日本人のあいさつは、わりあい自然で、やさしい。また、日本人は、あいさつをするためにあいさつをする〉
滞ZW　:“日本的特点，即使表面也给人感觉很友善，比较替人着想”〈日本人の（あいさつ）の特徴は、表面的ですが、友好的で思いやりがある〉
滞MM　:“日本特点：不认识的人也打招呼，容易接触”〈日本人の（あいさつ）の特徴は、知合いではなくてもあいさつをし、触れ合いやすい〉

中L1M　:“日本特点，固定形式，规矩多，死板，但对培养一个人的素质来说也有好的一面。欧洲人打招呼感觉比较真诚，但日本人打招呼不给人真诚的感觉”〈日本人の（あいさつ）の特徴は、定型表現で、規則が多すぎ、一本調子である。しかし、マナーの育成にいい面もある。ヨーロッパ人は、あいさつをする時、わりあい誠意がありそうで、日本人のあいさつは誠意に欠ける感じである〉
中HM　:“日本特点，正式。隆重。很好。很有礼貌。教育自己孩子时会参考借鉴日本的特点”〈日本人の（あいさつ）の特徴は、フォーマルで、厳かである。とてもいい。礼儀正しい。自分の子どもに躾をする時、日本の方を参考にする〉
中YM　:“日本人打招呼注重语言形式，一见面必定打招呼，不厌其烦。「おはよう」「こんにちは」「お疲れ」”〈日本人のあいさつは、言語形式のことに気をつかう。人と会う時、面倒がらずにいつも必ず「おはよう」「こんにちは」「お疲れ」などとあいさつする〉
中L2W　:“日本比较频繁。最大的特点是不认识的人也打招呼，体现一个国民素质。中国人认识的基本打招呼，不认识的人根本不打招呼。日本的太麻烦。日本孩子更有礼貌。礼貌教育不是一天两天的事。”〈日本人のあいさつは頻繁である。最大の特徴は知合いではなくても、あいさつを交わす。国民性を表現している。中国人は知合いなら、ほぼあいさつを交わすが、知らない人とは交わさない。日本式の方は煩わしい。日本の子どもはもっと礼儀正しい、礼儀の教育は一日二日の業ではない〉

設問七の日本人、滞日中国人、中国人の回答では、日本人の日常的なあいさつは、「時間帯のあいさつが違うこと」〈まず、朝昼晩の違い、次に天気のこと〉、〈フォーマル、厳かである〉

のような特徴があるという点で、三者がほぼ一致している。

滞日LMは〈日本人のあいさつは、わりあい自然で、やさしい〉とプラス・イメージに評価している。また滞ZWも〈日本人の（あいさつ）の特徴は、表面的ですが、友好的で思いやりがある〉、滞MMも〈知合いではなくてもあいさつをし、触れ合いやすい〉など好印象で認識している。それは、滞日中国人が長い間日本に滞在することによって、日本人のあいさつに対して、よく理解していたためと考えられる。同時に、滞ZWの〈日本人の（あいさつ）の特徴は、表面的ですが…〉及び滞日LMの〈また、日本人は、あいさつをするためにあいさつをする〉という認識は、虚礼あるいは儀礼的にあいさつすること自体が自己目的化していると批判的にも評価している。

一方、中国人が日本人の日常的なあいさつ表現の特徴について、中L1Mの〈定型表現で、規則が多すぎ、一本調子である。しかし、マナーの養成にいい面もある。ヨーロッパ人は、あいさつをする時、わりあい誠意がありそうで、日本人のあいさつは誠意に欠ける感じである〉との認識と、中L2Wの〈日本式の方は煩わしい。日本の子どもはもっと礼儀正しい、礼儀の教育は一日二日の業ではない〉との認識がある。要するに、「規則が多すぎ、一本調子である…誠意に欠ける」「煩わしい」とマイナスに評価する面があると同時に、「礼儀正しい」「マナーの育成にいい面もある」「国民性を表現している」とプラスに評価している面もある。

ここでは、日常的なあいさつ方式を通して、日本人と中国人が人間関係において何を求めているかということを考えてみる。「…日本人のあいさつは頻繁である。最大の特徴は知り合いではなくてもあいさつを交わす…」と対照的に「…中国人は知り合いならほぼあいさつを交わすが、知らない人とは交わさない…」という差異は何に由来するのであろうか。それは、日本人の「礼儀正しさを求める」価値観と中国人の「人間関係の親しさを求める」価値観の相違にあるのではないかと考えられる。

知らない人の間でいきなり親しさを求める、求められることは、一般的に好まれないことであろう。ただ、知り合いの間でも、知らない人同士でも、礼儀正しさの表示すなわち日本人の「礼儀正しさを求める」価値観は、相手に対する敵意のないこと、対人的なマナーの表示になり、マイナスの印象と否定的な結果を招く心配を回避するストラテジー(strategy) でもある。

一方、中国人の「人間関係の親しさを求める」価値観は、知らない人の間でいきなり行う場合好まれないが、知り合いの間では、人間関係をより深めるストラテジー (strategy) となる。これと対応するのは、中国人のあいさつの内容である。あいさつの内容は礼儀正しさを示す共通の定型表現より、臨機応変の特徴が著しく、相手のその場の状況や様子に言及することによってあいさつするから、設問六の日HWの認識のように「相手の情況を詳しく言う」ことになる。

許 (2009) は、「日本文化」と「中国文化」のイメージ比較のためにマインド・マップ調査を行なう中で、「和」に関する表現に次いで「礼儀」と「謙虚」をキーワードとした「丁重」に関する表現が出現したとしている。ルース・ベネディクト (1967) も「日本人は礼儀正しさの模範である」と述べ、崎田 (2004) の調査においても「日本人は非常に優しいのです。みんな礼儀正しく、教養のあるような気がします」「日本人は礼儀正しく、とても丁寧です」等の記述が見られたと報告している。日本人のあいさつのし方が礼儀正しく、丁寧との印象を与えるのであろう。

5．日本語学講読及び日本語学演習の受講生の感想カードから

曲志強は、山口大学人文学部の外国人研究者として、2008年４月から林伸一と共同研究を行っている。その一環として、人文学部において特別講義を行なっている。その中で、2009年１月の講義のテーマは「日本語と中国語のあいさつ表現について―日本人と中国人の日常あいさつに関する意識調査及び実態調査―」で、受講生同士が講義内容に関してペア・ワークを行った。気づいたことや感じたことを自由記述する形で集めた感想カードを談話分析資料として、日本人と中国人の日常的なあいさつ表現及び日本人と中国人の人間関係について分析した。

日本語と中国語のあいさつ表現について、中国人の曲と日本人の林の共同研究を行うだけでなく、受講生46名（日本人学生35名と中国人留学生11名）の認識と評価を加味することで、前述の三角関係化（triangulation）を図り、検討や検証に対する開放性（open-mindness）を保持する試みである。そうすることが、質的研究の客観性を高めるためのアプローチにつながると考える（大谷、1997参照）。以下の感想カードからの引用は前後を省略している場合はあるが、原文の日本語表現は、そのままの形で示している。

5．1　日本人と中国人の日常的なあいさつについて―家庭内の「おはよう」を中心に―

日K1W：日本では挨拶が定型化しており、大学内での「お疲れ様」などは、その一例だと思います。私たち日本人は挨拶について、しないと気が済まないものだと思う一方で、毎回同じ挨拶を繰り返すことで、何か新しい言葉を探す面倒の回避のためにしているのかもしれないと思いました。今度中国人留学生に話しかける時、臨機応変なものにもチャレンジしてみたいと思います。

日K2W：日本人は、朝起きて家族に「おはよう」と言うが、中国人は言わないと聞いて、少し寂しい気がした。日本人と中国人が会話をする際、互いに挨拶があるかないかで、様々に気になる点が生じると思うが、今日の講義の内容を知っていれば、平気だと感じた。

日MW：日本では家庭でも「おはよう」「いただきます」「いってらっしゃい」「おやすみなさい」等の挨拶を欠かすと、怒られたり反抗期かと思われると思うのですが、中国の家庭ではそのような教育はないと聞き、本当に日本は「親しき仲にも礼儀あり」の国なんだなあと思いました。中国の挨拶は話がはずみやすいのが良いところですね。

日HM：中国人は「ニーハオ」と言っているイメージがなんとなくあったので、「ニーハオ」自体そんなに使わないと知ってとても驚きました。

上記の日MWは、日本では家庭でも「おはよう」「いただきます」「いってらっしゃい」「おやすみなさい」等の挨拶を欠かすと、怒られたりすると述べているが、速司（2004）は、あいさつ表現としての「おはよう」に着目して質問紙法によるアンケート調査を実施している。それによると「時間にとらわれず、その日の初対面時に仲の良い友人に『おはよう』ということをどう思いますか」との質問に、10代から60代の245人の72.1％が「違和感がある」と回答している。ただし、10－20代の若者に限定すると、「違和感がある」との回答は52.8％に減少している。そこから、速司（2004）は、若者の仲間内でのあいさつとして「はじまり意識の『お

はよう』」と「ウチ意識の『おはよう』」という「おはよう」の機能的役割分担があるとしている。ウチ意識の「おはよう」は、家庭内でも「おはよう」というあいさつは交わされるが、「こんにちは」「こんばんは」はソト意識のあいさつであり、家庭内では言わないのと対照的である。

陣内（1998）は、キャンパスで、午後にその日初めて友達に会う場合の挨拶表現として「おはよう」が77.8%を占めたことから「友達同士の挨拶として、午後からの『おはよう（ございます)』は完全に定着している」としている。ただし、約10年を経た現在、大学のキャンパスで友達同士の挨拶として、「お疲れ～」が幅を利かせている。同じゼミの仲間やクラブ・サークルの仲間同士では、その日初めて会った場合でも挨拶表現として「お疲れ～」が用いられ、ウチ意識を確かめ合っているように見える。大学に来ること自体が「疲れる」行為だから、出会いがしらに「お疲れ～」を用いるのではなく、楽屋言葉が起源とされる同僚同士のねぎらい表現としての「お疲れ～」が、使用範囲と使用場面が拡張されて用いられているのが新傾向である。出会いがしらにもその日の別れや部屋の退去の際にも「お疲れ様」や「お疲れ～」が使用され、「失礼します」と同様に便利な言葉として多用されるようになってきたようである。

上記日K1Wの「日本では挨拶が定型化しており、大学内での『お疲れ様』などは、その一例だ」としているあたりが、上記のような日常的なあいさつ表現の変化の一端を示している。

日K1Wの日本で挨拶が定型化しているのは、同じ挨拶を繰り返すことで、何か新しい言葉を探す面倒を回避しているという認識は、言わば「あいさつ表現における回避のストラテジー」が毎回のように働いて、習慣化しているとも言える事態を示している。

また、上記の日MWの示した日本が「親しき仲にも礼儀あり」の国であるとの認識と「中国の挨拶は話がはずみやすいのが良い」との評価は、素材として提示したインタビュー調査の際の日本人の「礼儀正しさを求める」価値観と中国人の「人間関係の親しさを求める」価値観の相違という仮説を支持するものである。次に中国人留学生の記述を示す。

中SW：…総括して言えば、中国人より日本人のほうがいつもあいさつします。中国人はもし知人（なかよくではない）に会う時は、にこにこするだけでもいいです。日本人の学生はいつも「こんにちは」「おつかれさま」といいます。日本人はイギリス人と同じ、挨拶するときは、天気について話す場合が多いですが、中国人はあまり天気の話をしません。

中EW：隣の日本人の学生との話し合いによって、やはり中国人と日本人の日常あいさつがけっこう違います。例えば、中国人同士があったときひんぱんに「お早う」や「こんにちは」などが言いません。一方で、中国人同士があったとき、「食べたか」というあいさつが日本人にとってちょっと変だと思われています。

中LW：家庭内では、家族と「おはよう」などを言うことは、実に想像できないことですね。やはり、私にとっては、定型したあいさつは硬い感じがします。もし、生活事情に関するあいさつすると、なんとなく親しい気がします。

中ZM：“吃了吗” は中国がどこでも通じる挨拶みたい。日本語は「食事をすみましたか」と訳しますと、変な気がします。ただの挨拶だから「こんにちは」に訳したら十分と思います。

まず、「親しき仲にも礼儀あり」の典型表現としての家庭内の定型化したあいさつに対して、日本人学生の「日本人は、朝起きて家族に『おはよう』と言うが、中国人は言わないと聞いて、少し寂しい気がした」と記しているのに対して中国人留学生の「家庭内では、家族と『おはよう』などを言うことは、実に想像できないことですね」との記述から、両者の習慣と認識の差異がより明らかとなる。家庭内の教育と躾に関係するあいさつのし方を通して、日本文化と中国文化の違いも見えてくる。もちろん、中国の家庭内においても、それなりのあいさつがあるが、日本のようには定型化していない。朝の家族間のあいさつは、「起きたか」「よくねむれた？」あるいは相手への呼称などのように、やはり相手と直接関わっている内容の言語表現である。

曲（2009a）は、「日本では、大人にとっては教養として、子どもにとっては躾としてのあいさつの専門書が溢れている」と指摘している。また、挨拶教育研究会（1992：32）は、家庭内の朝のあいさつについて、次のように指摘している。

> 『今日も一日、お仕事がんばってきてね』
> 『ケガやクルマに気をつけて、学校で元気いっぱい勉強して無事に帰っておいで』
> 口に出さなくても、家族同士、心の底ではそういう温かい気持ちを抱いているものです。そんなお互いの気持ちを毎朝あからさまに伝え合うのは気恥ずかしいですが、『おはよう！』という短いあいさつにこめることは、簡単にできます。
> 『親が子どものことを大事に思っている』ということや『子どもから親への感謝』の気持ちは、長々と説明しなくても、毎日のあいさつ一つで伝わるのです。

また、同書（p.33）には次ページのような挿絵が掲載されている。（イラスト：長谷川泰男）

図１　家庭内の「おはよう」

図１の挿絵は、「察しの文化」と「以心伝心」を好む日本人が、相手への関心や心配がいろいろあったとしても、あからさまに口に出して言うことは失礼であり、ただ一言の「おはよう(ございます)」のあいさつで、声の調子や表情など非言語コミュニケーションの要素を伝え合っており、互いに分かり合う要素が多いと思っていることを示しているのであろう。また、家族の間でも直接的な言語表現よりもむしろ間接的な言語表現が好まれていると言えるであろう。

一方、同じ場面で、中国人の家庭においては、親は元気のある子に“睡好了？”〈よくねむれた？〉。また、元気のなさそうな子に、“怎么了？”〈どうしたの？〉のような具体的な質問をもって、朝のあいさつを行う。逆に、子どもから親に向けて“妈，今天的早饭很香吗！”〈お母さん、今日の朝ごはんはいい匂いだね〉、“爸，新领带啊！”〈お父さん、新しいネクタイだね〉のように、まず、呼称で目上の存在への敬意を示し、また、相手のその場の状況や様子に言及することによって、あいさつの機能を果たしているのである。故に、中国人留学生の中LWの感想カードでは、「…やはり、私にとっては、定型したあいさつは硬い感じがします。もし、生活事情に関するあいさつすると、なんとなく親しい気がします」との記述となったのであろう。

５．２　日本人と中国人の日常的なあいさつについて―「ご飯を食べました？」を中心に―

中国人のあいさつの例として、よく挙げられる、“吃饭了吗？”〈ご飯を食べました？〉という言語表現について日本人学生の日HMと中国人留学生の中ZMが記述した内容を検討したい。

日HM：	…「ご飯食べた？」が旧中国時代の大飢饉による影響だという説は興味深いです。…日本でも戦時中で食糧難になった時期があるのに、中国のようなあいさつ形式にならなかったのは何故だろうと疑問に思いました。…
中ZM：	“吃了吗”は中国がどこでも通じる挨拶みたい。日本語は「食事をすみましたか」と訳しますと、変な気がします。ただの挨拶だから「こんにちは」に訳したら十分と思います。

上記の日HMは「ご飯食べた？」が旧中国時代の大飢饉による影響だという説に興味を持ち、日本で中国のようなあいさつ形式にならなかったのは何故か疑問に思い、「時間がある時に調べてみたい」と学習意欲を示している。

中国の著名作家老舎の作品『柳家大院』(1934＝1993：83) の中に、「“大家见面招呼声‘吃了吗？’，透着和气。”〈互いに会ったら、「食べた？」とあいさつして、睦まじい雰囲気が漂う〉」のような描写がある。

劉 (2006：27) は「“你吃饭 了吗？”が挨拶の言葉となった背景には、旧中国時代に大飢饉に遭い、ひもじい思いをさせられた民衆の気持ちが反映されており、日々の食べものにあり付けたかどうかが人々の最大の関心事だったので、そういう挨拶になったという説があるが、なかなか説得力のある説と言えよう」としている。“吃了吗？”〈食べた？〉及びその変種“还没吃饭呀”〈食事に行かないの？〉は、表現形式は一回の食事のことを尋ねることである。しかし、実質的な意味を離れて、一種のあいさつ表現に変わったために、具体的な「ご飯を食べた？」

という意味より、相手に対する友好と関心を示す意味合いのコード（code）となった例であろう。言語記号論としての典型的な事例の一つと言えるであろう。

中ZMの“吃了吗”は、ただの挨拶だから「こんにちは」に訳したら十分との判断は、中国人が日本語の「こんにちは」に対する理解にとっても、また、日本人が中国語の“吃了吗”に対する理解にとっても、参考になる。

戦時中の食糧難だけでなく、歴史的に見ると、日本においては飢饉などによる食糧難の時期もあったのに、なぜ、中国のように「ご飯をたべましたか」のようなあいさつ形式にならなかったのであろうか。それは、「おはよう」の由来と結びつけて考えてみたい。「おはよう」は、「お早いですね」という相手の勤勉さへの称賛と励ましから変形したあいさつ表現であるという説がある。これは、日本であいさつ表現としても、励まし表現としても使われている「頑張ってね」と異曲同工の妙を持っている。日本語の「おはよう」は、そもそも一日のスタート時点での「はじまり意識」として「頑張る」の意を含んでいるのではないかと考えられる。要するに、直接相手の生活への関心をあいさつの内容にすることより、生活を改善することに繋がる相手自身の勤勉さへの励ましとなり、日本人同士の人間関係において、好まれるのであろう。金田一（2002）も「おはよう」を「相手の勤労に対するねぎらいの言葉」としている。日本語の励まし表現「頑張ってね」に関しては、曲・林（1999b、2000a、2000b、2000c）を参照していただきたい。

許（2009）の「日本文化」のイメージ調査においても、「和」「丁重」に次いで「勤勉」に関する表現が出現したと報告しているが、「勤勉」は「頑張る」との関連が強いと思われる。

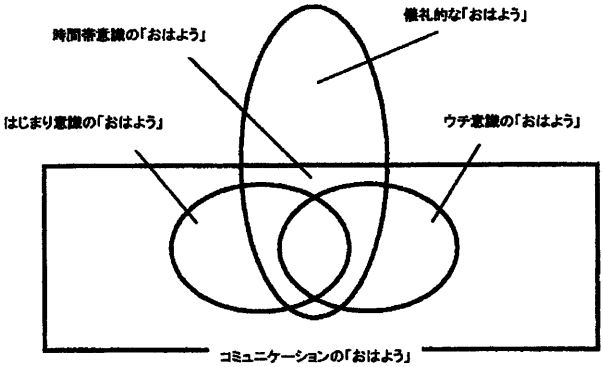

図２　「おはよう」の意識

速司（2004）は、あいさつ表現としての「おはよう」を検討する中から、図２に示したような時間意識の「おはよう」、儀礼的な「おはよう」、ウチ意識の「おはよう」、はじまり意識の「おはよう」と「おはよう」の意識を区分している。一日のスタート時点で、時間意識と「頑張る」の意を含んで発せられた「おはよう」は、はじまり意識の「おはよう」であり、ウチ意識で互いに「頑張る」の意を含んでいると考えられる。金田一（2002）も、テレビ業界とか夜の商売

などの世界で、夕方仲間に会うと「おはようございます」と声をかけるのは、「朝早い」ということではなく、「自分より早くから来て、仕事をしていた」という意味に解釈できるとしている。図1の家庭内の「おはよう」も習慣化し、儀礼化した「おはよう」であると同時に多様な意味合いを持っていることを示している。

6．まとめと考察

以上、インタビュー調査の結果を素材として提供した特別授業において、その受講生（日本人学生と中国人留学生）の感想を基に、日本人と中国人の日常的なあいさつに関する互いの認識と評価について三角関係化（triangulation）の観点から質的研究の一環として検討した。

まず、日本人、中国人、滞日中国人の回答から分かるのは、相手のあいさつ表現に対して、互いに理解し、共通認識に立って評価することができる側面もあるが、その一方で自文化の価値観に影響されて、一定の否定的な認識や批判的な評価が見られることである。日本人と中国人との直接的なコミュニケーションが極めて日常的な現象となっている今日において、この一定の否定的な認識や批判的な評価があることによって、コミュニケーション上マイナスの影響が出ることが考えられる。その点、留学などの目的で日本に滞在している「滞日中国人」は、自文化としての中国文化と他文化としての日本文化の双方を理解できる立場にあり、コミュニケーションをプラスの方向に促進させる役割を担うことができる。

次に、日本語のあいさつを中国語に訳す場合や中国語のあいさつを日本語に訳す場合、言語面の工夫と同時に、そもそも各々のあいさつ表現に潜む価値観の違いや文化的発想の違いへの理解の重要性が、本研究によって明らかにされたと思われる。特に、言語及び文化教育の現場において、学習者に言語的文化的な比較意識を許容的非審判的に育てることは、教育関係者及び研究者が自覚的に取り組むべき課題であろう。

また、日本人は「礼儀正しさを求める」価値観によって、人間関係における距離感や距離意識を重視している。一方、中国人は「人間関係の親しさを求める」価値観によって、人間関係における距離感や距離意識が希薄である。そういった相違に対して、互いに意識的に認識し、理解すること、誤解を恐れず直面すること（confrontation）は、より肯定的にコミュニケーションを図るためには、積極的な意味があると思われる。（曲、2009b参照）

本稿の質的な研究の試みは、アンケート調査などの量的な研究に比べて、明確な結論に到達したという印象が薄いかもしれない。しかし、日本人の「礼儀正しさを求める」価値観と、中国人の「人間関係の親しさを求める」価値観という概念のコード化がなされたことは、ステレオタイプ的であるとの批判はあると思われるが、一定の支持も得られたと思われる。

統計学を用いた量的研究が科学的であるとして重視され、談話分析やインタビュー調査のような質的研究が軽視される風潮に対しての批判と反省から、近年社会学者のグレイサーとストラウス（Glasser & Strauss）のグラウンデッド・セオリーが着目されている。彼らとほぼ同時期に日本でも川喜田（1967）が「今日、科学的な情報集めというと常に『定量的でなければならない』という固定観念がしばしば見うけられるが、これなどは非常に大きな害悪を流している」として定性的な研究（質的研究）の重要性について説いている。グラウンデッド・セオリーが観察やインタビューの記録にキーワードを付けていく過程をコード化（coding）と呼ん

でいるが、川喜田（1977）も「鋭い観察は単位化と名づけから」として、いわばコード化の重要性を説いている。今後も定性的な研究（質的研究）と単位化（コード化）が研究内容の深化を支えていくと考える。

本研究テーマにおいても、インタビュー調査や談話分析を重ね、さらに概念のコード化、カテゴリー化をすすめ、理論構築していくことが今後の課題となる。

本稿では、大学の授業研究としてペア・ワーク（pair-work）を取り入れた授業方法の一端を開示し、検討を加えた。参加学生の「今度中国人留学生に話しかける時、臨機応変なものにもチャレンジしてみたいと思います」との発言に行動変容の可能性が感じられる。

また、学生同士のペア・ワークだけでなく、研究者同士も共同研究という形でのペア・ワークを実践し、独善的な論理展開を排して、より説得力のある理論構築を目指すことが望ましいと考える。特に、日本文化と中国文化のような異文化研究の場合は、どちらか一方からだけの観察と検討では不充分であろう。両者の立場からの相互批判を通して、論文の質とレベルの向上が期待できる。以下に示す参考文献の中だけでも曲・林の共同研究論文が5本示されているが、さらに本稿が加わることを大きな喜びとしたい。

（注１）インターネット上でも、以下のように中国語では相手を「呼称」することがあいさつになるとの見解が見られる。

・日本語は「こんにちは」で挨拶するけど、中国語は「呼称」で挨拶するんだ。（http://haru2004.jugem.jp/?eid=54）

・中国の礼儀として「叫人・喊人」というのが有ります。相手を呼称し挨拶をするという礼儀です。通常の日本人では「你好！」で済みますが、私の場合はそうはいきません。「張董」「吴経理」「李大哥」「赵主任」你好！！！目上は全て呼称で挨拶です、目下は相手が先に挨拶してきますから、好好！と言っておけば済みます。（http://blog.livedoor.jp/andy_ding07/archives/50165733.html）

・お互いが知り合いの場合、相手の名前を呼ぶことが挨拶になるからです。「田中さん！」と声をかければ、それが中国では挨拶なのです。日本の場合、相手の名前を呼ぶと、その後に何か会話が続きますよね。このように挨拶一つとっても、そこには異なる文化があって、面白いのです。（http://professor.kanagawa-u.ac.jp/ffl/chinese/prof02.html）

（以上３件、2009年11月５日検索）

【参考文献】

挨拶教育研究会（1992）『これだけは身につけたい　あいさつの教科書』中経出版　pp.32-33

大谷尚（1997）「質的研究方法」平山満義編著『質的研究法による授業研究』北大路書房　pp.140-153

片桐龍嗣（2008）「質的調査技法と質的データの特質」北澤毅・古賀正義編『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社　p.37

川喜田二郎（1967）『発想法』中公新書

川喜田二郎（1977）『ひろばの創造―移動大学の実験―』中公新書

許恵玉（2009）「『日本文化』と『中国文化』のイメージ比較研究―日本人のマインド・マップ調査による検討―」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第32号、pp.136－150
曲志強（2000）「中国国内の中国人と滞日中国人における励まし表現の比較」中国四国教育学会発行『教育学研究紀要』第46巻（第2部）pp.378－383
曲志強（2009a）「日本語と中国語のあいさつ表現について―大人と子どもの間の談話分析―」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第32号、pp.96－108
曲志強（2009b）「日本語と中国語のあいさつ表現について―日本人と中国人の日常あいさつに関する意識調査及び実態調査―」日本比較文化学会発行『比較文化研究』No.86、pp175-187
曲志強・林伸一（1999a）「日本語と中国語のあいさつ表現の比較」全国語学教育学会（JALT）山口支部発行『山口支部研究紀要』第5号、pp.24－38
曲志強・林伸一（1999b）「励まし表現の日中比較～『頑張ってね』と『有事説一声』～」中国四国教育学会発行『教育学研究紀要』第45巻（第2部）pp.420－425
曲志強・林伸一（2000a）「日本語における励まし表現に関する考察」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第23号、pp.94－106
曲志強・林伸一（2000b）「日本語における励まし表現における男女差」全国語学教育学会（JALT）山口支部発行『山口支部研究紀要』第6号、pp.14－23
曲志強・林伸一（2000c）「日本語における励まし表現における年齢差～アンケート調査の分析と考察」全国語学教育学会（JALT）日本語教育部会発行『JALT日本語教育論集』第5号、pp.94－106
金田一春彦（2002）『日本語を反省してみませんか』角川書店　p.105
古賀正義（2008）「質的調査の四半世紀」北澤毅・古賀正義編『質的調査法を学ぶ人のために』世界思想社　p.3
崎田永策（2004）「学生がいだく日本のイメージ」『日本語教育通し中国で発見した日本―日本では見えない日本』新風舎　pp.219-226
陣内正敬（1998）『日本語の現在』アルク
陳仲鵬（2009）「日本語と中国語の同形語＜先生＞について」山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第32号、pp.152－166
土岐哲（2004）「インタビュー・聞き書きと質問調査法」『日本語学』第23巻8号、pp.32－43
林伸一（2008）「ペア・ワーク共育論―対話のある授業実践―」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』（CD-ROM版）第54号、pp.65－70
速司正成（2004）「あいさつ表現としての『おはよう』」全国語学教育学会・日本教育カウンセラー協会『山口支部研究紀要』第9号、pp.135－149
劉徳有（2006）『日本語と中国語』講談社　p.27
Ruth Benedict（1967）*THE CHRYSANTHEMUM AND THE SWORD*「邦訳は、ルース・ベネディクト著、長谷川松治訳（1972）『菊と刀―日本文化型』社会思想社」
老舎（1934＝1993）「柳家大院」『老舎小説全集　第十巻』長江文芸出版社　p.83

（キョクシキョウ・はやししんいち）

別添資料（日本語）

日常あいさつに関するインタビュー調査項目

作成者　曲志強　　作成時期　2006年２月

一、あなたは日常あいさつに対してどういうふうに認識していますか。それはなぜですか。

1、重要

2、それほど重要ではありません

3、重要ではありません

4、真剣に考えたことがありません

二、あなたは日常あいさつをする時、より多く使う言葉（内容）、動作は何ですか。

三、あなたは異なる人に会った場合、どういうふうにあいさつしていますか、意識的にあいさつの内容を選びますか。

1、意識的にあいさつの内容を選ぶ場合、その基準は何ですか

2、意識的にあいさつの内容を選ばない場合、どういうふうにあいさつをしますか

四、日常あいさつの習得についてあなたはどういうふうに思っていますか。

1、自然にできることです

2、ある程度の勉強が必要です

3、親及び他人からの指導、教育が重要です

五、あなた自身が日常あいさつについて指導或は教育された時期は、主にいつ頃でしたか。

1、こどもの時や小学校の時

2、中学校、高等学校或は大学の時

3、就職してから

六、あなたは中国人の日常あいさつの特徴についてどう思いますか。

七、あなたは日本人の日常あいさつの特徴についてどう思いますか。

八、“你好”と「こんにちは」の使用状況

九、子供へのあいさつについての教育

十、夫婦間及び家族間のあいさつ状況

十一、「おはよう」「こんにちは」などのあいさつをした後、すこし話す（立ち話）時間がある場合、何を話しますか？

十二、中国人と日本人のあいさつは男女の区別がありますか、あると思ったら、その区別が大きいですか。例を挙げてください。

十三、あいさつしてくれるはずなのに、あいさつしてくれなかった相手に、あなたはどう思いますか？

十四、日本人と中国人の人間関係について、それぞれどのような特徴がありますか。